

【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】

（肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

作文部門 小学部）

「学習発表会の思い出」

北海道拓北養護学校 小学部四年

北島 玲愛

十月三十一日金曜日に、学習発表会がありました。げきの名前は、

『大チャンス図かん』です。わたしは、ナレーターをしました。ナレーターで大きな声でセリフを言うのをいしきました。

はじめは、言葉をまちがえたけど、練習をしたらまちがえなくなりました。最後のところで、わたしの声が小さかったので、まだ言ってないセリフがあったけど、みんなが次の言葉を言っちゃいました。その時思ったことは、「失敗しちゃったけど、次の練習の時は、言えるようになるために、いっぱい練習して、言えるようになりたい。」でした。それで、いっぱい練習して、まちがえた言葉を言えるようになりしました。

発表会当日のときに、心に残っていることは、楽しかったけど、きんちょうした気持ちが一番強いです。その理由は、自分のセリフを言えなかつたし、きんちょうしたけどみんなできてうれしかったからです。

発表会をとおして、最後までやればできるってことがわかりました。これから最後まであきらめずにちょうせんしてみることががんばります。

【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】

（肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

作文部門 中学部）

「あなたの思う障がいとは？」

北海道手稲養護学校 中学部三年

加納 明幸

みなさんは、障がい者と聞いて、どのようなイメージをもつでしょうか。身体が自由に動かない人という印象を持つ人は多いと思います。そして、中には障がい者だからできることが少ないと感じる人もいます。障がい者差別が起きていることは知っていても、何をすればいいかわからないという人もいます。しかし、私が介助されている中で嬉しいことは、普通の人と同じように話してくれることです。そして、もう一つ、障がい者という一つの言葉でまとめられていることに違和感があります。私は、電動車いすやバギーを使っているので、段差をなくして欲しいと感じることがよく

あります。けれども、文字を大きくして欲しいと感じる人や、ジェスチャーを交えて話して欲しいと思う人もいます。この世界に様々な民族の人が暮らしているように、障がいの種類も人によって違うのです。また、同じ障がいでも、程度が異なることもあります。なので、それぞれに合わせた支援が必要です。まずは、障がいを持っている人たちに広げて欲しいのです。

ここまで、障がい者を支援して欲しいということをメインに文章を書いてきましたが、私は障がい者だから何もできないということはないと思っています。私の場合、電動車いすにのせてもらって、スイッチを入れてもらえば、自分で車いすを操作することもできます。ある程度の手助けをしてもらえば、自分でできることもあります。自分でできることが増えると嬉しいのです。iPadを使って小説を書くことにも挑戦しています。少し時間はかかりますが、声を使って入力しています。私は、これからも、たくさんの人の力を借りながら色々なことに挑戦していきたいです。

### 【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】

#### （肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

##### 作文部門 高等部）

#### 「見学旅行の思い出」

北海道函館養護学校 高等部二年

原口 悠汰

僕は十月一日から三日まで、仙台に見学旅行に行ってきました。

今回は、新幹線に乗って仙台駅まで行きました。新函館北斗駅で買ったニンジン弁当を食べながら、花巻市や盛岡市などの移り変わる景色を眺めたことが、新幹線での思い出の一つになりました。

仙台駅に着いたときは、これからどんなところに行くんだろうというドキドキとワクワクに包まれていました。

最初に訪れたのは、東北福祉大学です。大学との交流では、仙台のことに関するプレゼンテーションを通して、仙台の魅力をよく知ることができました。また、僕たちからは教室で「あっち向いてホイ」大会や飛行機の音楽当てクイズを行い、楽しく交流することができました。

ホテルでは、仙台牛のすき焼きや野菜、魚など、ご当地グルメを味わうことができ、とてもおいしかったです。

さらに、仙台うみの杜水族館では、友達とお土産を買ったり、ご飯を食べたりして、さらに盛り上がりました。

その中でも特に楽しかったのは、二日目の午後の自主研修です。駿汰君と関先生、千葉先生と一緒に「アエル展望テラス」というタワーに上りました。最上階の三十一階からは仙台市内に立ち並ぶビル群を一望でき、都会的な街並みをじっくりと眺めることができました。

次の目的地である楽天モバイルパーク宮城では、中には入れませんでした。外にいるだけで球場に来たんだというのを実感しま

した。次はファイターズの試合があるときに行きたいです。余談ですが、写真を撮るときにファイターズの帽子をかぶっていたら、仙台市民の方に二度見されたのもいい思い出です。

最終日の三日目は、仙台駅から新函館北斗駅まで新幹線で帰りました。帰りの車内では「仙台まるごと弁当」を食べながら、花巻市や青森市を通り過ぎ、楽しかった三日間を思い返していました。無事に帰り着いたときに、少しさびしさもありましたが、それ以上に充実感でいっぱいでした。

また仙台に行く機会があったら、家族や俊汰君と遊びに行ってみたいと思います。

## 【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】

### （肢体不自由・病弱特別支援学校の部）

作文部門 高等部

#### 「見学旅行の思い出IN仙台」

北海道函館養護学校 高等部二年

西田 駿汰

僕は十月一日から三日の二泊三日で、仙台へ見学旅行に行ってきました。

一日目は、新函館北斗駅でカニ飯弁当を買い、新幹線の中で弁当を食べ、青森や岩手の景色を楽しみながら仙台に向かいました。

仙台駅に到着し、改札口に向かうと、人の多さにとっても驚きました。人混みの中、なんとか外に出てバス乗り場に着くことができました。バスに乗り、最初に向かったのは東北福祉大学でした。「あっち向いてホイ」や函館のグルメ紹介をして、大学生との交流を楽しみました。

その後は、秋保リゾートホテルクレセントというホテルに行きました。夜は牛すき焼きや魚、野菜など、おいしいご飯を食べました。

二日目は、ホテルからうみの杜水族館へ行きました。大水槽で行われたイワシのショーでは、無数のイワシが泳ぐ姿の迫力にびっくりしました。その後は、友達や先生とお昼ご飯を食べたり、クラゲのキーホルダーを買ったりして楽しみました。

午後からは自主研修で、グループに分かれて行きたい場所を巡りました。僕のグループはアエル展望テラスと楽天モバイルパーク宮城に行きました。アエル展望テラスは仙台を一望できる三十一階の建物で、エレベーターで一気に上がりました。上がる前は少し怖かったけれど、景色を見た瞬間に思わず「いやあ、いい眺めだなあ」と言ってしまうました。天気も良く、最高の景色を見ることができました。

次の目的地に行くバスまでの時間があつたため、仙台駅の自販機ですんだシェイクを買って飲みました。ほっぺがとろけるほど甘くておいしく、また飲んでみたいと思いました。

次に行った楽天モバイルパーク宮城は、とても大きくて驚きました。この日は試合がなかったので中には入れませんが、悠汰

君と野球のポーズをしてたくさん写真を撮りました。

ホテルに戻って、夜ご飯を食べた後は、温泉に入りました。友達や先生と一緒に「いい湯だな」を歌いながらゆったりと楽しみました。

三日目は、ホテルからバスに乗って仙台駅に到着。お土産や牛タン弁当を買い、無事に新幹線に乗りました。景色を見ながら食べる牛タン弁当はおいしかったです。無事に新函館北斗駅に着き、少しホツとしました。

あつという間の三日間。本当に楽しい見学旅行でした。前の週に風邪をひいてしまいましたが、しっかり治して行くことができて本当によかったです。高校生最後の見学旅行でしたが、友達と先生と助け合いながら、最後まで楽しむことができたのが一番うれしかったです。またどこか家族や学校の友達と一緒に仙台に行きたいです。

**【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】**

**(肢体不自由・病弱特別支援学校の部)**

朗読部門 小学部)

北海道拓北養護学校 小学部三年

反保 晴希

10がつ24にち がっこうのたいいくかんで 7人でがくし  
ゆうはつぴようかいをしました。

3年生は、3SSZファームをしました。

ぼくはコアラやくで、りんごをいっぱいとりました。  
りんごをはこびました。

「おおきなりんごのきのしたでを えんそうしよう」  
といて、えんそうしました。

めちやめちやほんきだしました。  
すごいきんちようして いけるかなーってしんぱいしたけど、

そうれんしゆうだとおもってやったら、  
すこしきんちようがなくなったから、だからたぶんおおいこ  
えでいけました。

**【北海道特別支援学校生活体験発表会最優秀作品】**

**(肢体不自由・病弱特別支援学校の部)**

朗読部門 中学部)

「みんな差別をやめるべきだ」

北海道手稲養護学校 中学部一年

西山 優馬

ぼくは、虫がきらいなんです、男だから虫ごときでさわぐなど  
いわれ、男だからという言葉にきずつきました。これが性別なん  
だなと思いました。

差別が起こる原因は「偏見や固定観念、障害の有無、性別などの理

由で差別が起こります。このような差別に苦しむ人の数は世界に約一億五千万人以上います。これらのような差別をなくすには、まず、「みんな違う」と知り、人々が置かれている状況を正しく学び、コミュニケーションを深めることが少しずつ「差別をへらすこと」につながります。」(プランインターナショナル二〇二三年調べ)

ぼくは、このような差別に苦しむ人が世界でもたくさんいると知り、この作文を通してでも差別がなくなればいいなと思いました。

### 【全国盲学校弁論大会北海道代表作品】

#### 「居場所・出会い・そして芽生えた私の思い」

北海道札幌視覚支援学校 中学部三年

川上 心愛

あなたにとっての「居場所」はどこですか？あなたにとって人生が変わるような「出会い」はありましたか？今日は私の「居場所」、「出会い」、そして芽生えた「思い」について話そうと思います。

私は中学一年の秋から体調が悪くなり、それに、人間関係で悩んだりして、辛くて学校に行けない時期がありました。体調の悪い日は横になったまま起き上がれず、心が不安定な日はうずくまって泣く日々でした。楽しいこともなく、ただ時間だけが過ぎていききました。とても苦しかったです。今にでも壊れてしまいそうだった。そんなとき、私の人生を大きく変えた場所に出会いました。ある日、母に「登

校支援室って知ってる？」と聞かれました。「何それ？」と聞くと、「学校に行きづらい子たちが行ける場所だよ。それが近くにあるんだ。」と教えてくれました。私の住んでいる岩見沢市の登校支援室は、教育大学の一角にあり、市内の学校へ行けない小中学生が、勉強や運動をすることが出来ます。私は、去年の十月から通っています。そこにいると一瞬で嫌なことを忘れて、楽しく過ごすことができ、いつしか、そこが私の「居場所」になっていきました。

「登校支援室」に初めて行ったときはとても不安でした。目の見えない私を受け入れてくれるかなど。不安な気持ちをリュックに詰め込んで初めて「登校支援室」のドアを開けたとき、私はとても驚きました。先生は「おはよう」と優しく出迎えてくれ、教室に入ると他の子たちも「よろしくね」と温かく迎え入れてくれたのです。「みんな、私のことを受け入れてくれたんだ！」ととてもうれしくなりました。それから、たくさんの人と話すようになり、ついに、友達ができました。みんなが優しく声をかけてくれたり、私から声をかけたりして、今では十人近くの友達がいます。すぐに意気投合し、お昼から帰る時間まで、話したり調理をしたりするようになりました。そんな、仲良しみんなに、私の第一印象を聞きました。初めて仲良くなった友達は、「目が見えないとは思わなかった。すごく頑張っている感じがした。そして、気が合いそうだなって思った」と言ってくれました。三年になってから仲良くなった友達は、「明るくて面白そうな子だなって思った。かわいいものが好きそうって思った。目が見えなくて不自由なことってないのかなって思った」と話してくれま

した。そして、いつも勉強を教えてください、相談に乗ってくださる登校支援室の先生にもインタビュをしました。先生は「同年代の子と話しているのが楽しそうだなって思った。見える、見えない関係なく、楽しく過ごせるのがとてもいいと思う」と話してくれました。そこで出会えたみんなは、私にとっての一生の宝物です。

一年の秋から今日まで、本当にたくさんの方々に支えられてきました。学校に行きやすいように工夫をしてくださった先生方。学校に行くとき話しかけてくれる中学部のみんな。辛くて落ち込みながら行った、登校支援室。「何かあった？」と優しく聞いてくださる先生方。お昼になると、「一緒にごはん食べよう」と話しかけてくれる友達。辛いときにいつもそばにいてくれた、家族……。思い返してみると、この約二年の日々は無駄ではなかったと思います。確かに、辛い思いはたくさんしました。でも、そのおかげで一生の宝物と出会うことができました。私は強い味方をつけ、苦しみに勝利したのです！「どんなことも諦めなければなんとなかなる」と心から感じた中学部生活、あと少しで幕を閉じます。この残された時間を大切にしていきます。私は、「登校支援室」という「居場所」に巡り合い、運命的な「出会い」をし、そして、「目の見えない私でも自信を持って、生きていっていいんだ」ということ、たくさんの方が支えてくれていることに気付くことができ、新たな夢ができました。それは、「学校へ行きづらい子が、安心して過ごせる場所をつくる」ことです。次は、私がたくさんの人に手を差し伸べて救ってあげたいと思います。これからは、この夢を叶えるために自分に今できるこ

とを探していきたくて考えています。それと同時に、支えてくださった方へ恩返しをしていきたい、これが今の私の「思い」です。あなたにとっての「居場所」はどこですか？あなたにとって人生が変わるような「出会い」はありましたか？みんなが笑顔で、学校へ通えますように。その日まで。